

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果から読み取れる、
児童生徒や学校の状況

調査人数 小学6年生 955名、中学3年生 893名

1 教科に関する調査結果

正答率一覧（単位％）（「正答率」は、満点を100点としたときの「点数」と同じです。）

学校	教科	年度	全国平均	県平均	石巻市平均	全国と市の差	県と市の差
小学校	国語	R7	67	64	64	-3	0
		R6	68	65	66	-2	+1
	算数	R7	58	52	50	-8	-2
		R6	63	57	58	-5	+1
	理科	R7	57	53	52	-5	-1
		R4	60	60	55	-5	-5
中学校	国語	R7	54	52	51	-3	-1
		R6	58	55	53	-5	-2
	数学	R7	48	42	39	-9	-3
		R6	53	46	44	-9	-2
	理科	R7	503	485~494	482	-21	-3~-12
		R4	49	47	45	-4	-2

注1) 全国、県共に公立学校の平均です。

注2) 県平均は仙台市を除いた数値です。（国立教育政策研究所にホームページより）

注3) 県平均、石巻市平均は、整数値で示されており、全国平均の数値は、小数第1位を四捨五入したものです。（中学校理科は全て整数値）

注4) 令和7年度中学校理科は、「IRTスコア」という新しい数値で表しています。

2 教科に関する調査結果から ○：よさ △：課題

〔国語〕

○小学校は、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の前答率を上回った。

○中学校は、前答率、前答数ともに、全国・県との差が縮まった。

〔算数・数学〕

○半数以上の設問で、全国より無解答率が低かった。

△記述式問題では、説明がうまくできない解答が多く見られた。

〔理科〕

○小学校では記述式問題、中学校では短答式問題で全国より誤答の割合が少なかった。

△選択式問題で、誤答の割合が高かった。

〔全体〕

○中学校国語で全国平均との差が縮まった。

○小学校理科、中学校国語で県平均との差が縮まった。

△中学校国語以外は、全国平均との差が昨年度並み、または差が広がっている。

<全国との乖離が特に大きかった問題>

小学校算数

方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ

※ 台形の意味や性質について理解しているかどうかを問われている。

(令和7年度全国学力・学習状況調査 小学校算数 大問2)

2

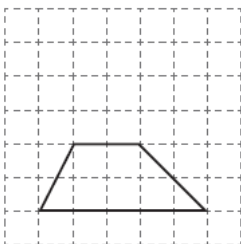
わかなさんたちは、いろいろな図形について学習してきたことをふり返っています。

(2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。

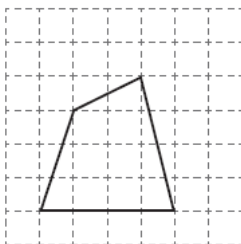
下の 1 から 5 までの中で、台形はどれですか。

3つ選んで、その番号を書きましょう。

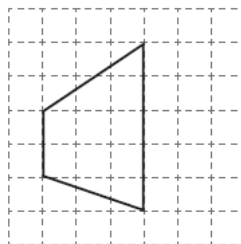
1



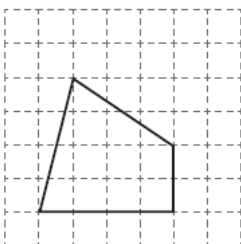
2



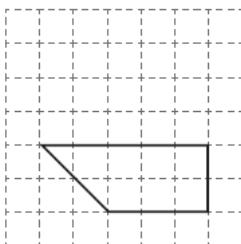
3



4



5



中学校数学

連続する三つの倍数のが、9の倍数になることの説明を完成する

※ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを問われている。

(令和7年度全国学力・学習状況調査 中学校数学 大問6)

6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3、6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12、15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30、33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(3) 結菜さんは、連続する2つの3の倍数を、連続する3つの3の倍数に変えた場合、その和がどんな数になるかを調べました。

$$\begin{array}{ll} 3、6、9 \text{ のとき} & 3 + 6 + 9 = 18 = 9 \times 2 \\ 6、9、12 \text{ のとき} & 6 + 9 + 12 = 27 = 9 \times 3 \\ 9、12、15 \text{ のとき} & 9 + 12 + 15 = 36 = 9 \times 4 \end{array}$$

結菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想

連続する3つの3の倍数の和は、9の倍数になる。

上の予想がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する3つの3の倍数は、
 $3n$ 、 $3n+3$ 、 $3n+6$ と表される。
それらの和は、

$$\begin{array}{l} 3n + (3n + 3) + (3n + 6) \\ = \end{array}$$

3 児童生徒質問紙から ○：よさ △：課題

(1) 学習意欲の向上について

- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。」は、肯定的な回答の割合が全国平均を上回った。
- 国語、算数・数学で「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますか。」「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれていますか。」は肯定的な回答の割合が全国平均を上回った。
- 「算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。」「算数（数学）の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えていますか。」は肯定的な回答の割合が、全国平均を上回った。
- △「自分にはよいところがありますか」は、割合としては8割を超えているものの、全国値を下回った。

(2) 授業改善について

- どの教科も「授業の内容がよく分かりますか。」の項目で全国値を上回った。
- 「授業で、自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか。」などの、主体的・対話的で深い学びに関する領域の全ての項目で全国値を上回った。
- 国語に関する項目は、ほとんどの項目で全国平均を上回った。

(3) 生活習慣について

- △朝食を毎日食べている割合、毎日同じ時刻に寝ている、家庭学習の時間と読書の時間については、全国平均を下回った。

4 学校質問紙から ○：よさ △：課題

(1) 学習意欲の向上について

- 「学習指導において、児童生徒が一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していますか。」は、全国平均を上回った。

(2) 授業改善について

- 「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。」は、全国平均を上回った。
- 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。」は、全国平均を上回った。
- △「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか。」は、全国平均を下回った。

(3) 生活習慣について

- 「家庭学習について、児童生徒が前年度までに、学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。」は、全国平均を上回った。
- 「児童生徒一人一人に配備されたP C・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。」は、全国平均を上回った。

**令和7年度全国学力・学習状況調査結果・分析に基づき、
「石巻市の学力向上」を展開する中で、下記の取組を推進する。**

石巻市教育委員会では、石巻市学力向上プランの実施等により、学力向上対策に力を入れている。

今後も、学力向上推進委員及び市内全小中学校の教職員や保護者と課題意識の共有を図りながら、学力向上に向けた教育活動の改善と充実を目指していく。以下、石巻市学力向上プランで掲げる3つのポイントに沿って、課題解決を図る。

1 学習意欲の向上

「自己有用感等」の領域を見ると児童生徒は教師に対し、好意的である面がうかがえる。一方、自分の良さに気付くことや、日々の生活や人との関わりの項目は、全国より割合が低い傾向にある。このことから、これまで本市を挙げて取り組んできたMLA（マルチレベルアプローチ理論）を生かしつつ、児童生徒の学習意欲を高め、生活全般の充実と更なる学習意欲の向上を図る必要がある。

以上を踏まえ、次の2点を重点とし、学習意欲の向上を図る。

- ①学級適応感尺度（ASSESS）と学びのユニバーサルデザイン（UDL）を意識した学習環境の整備…最重点
- ②MLAに基づく実践の継続

2 授業力の向上

児童生徒は、3教科ともに授業内容は分かると回答している割合が高い。また、主体的・対話的で深い学びができていると思っている割合も高い傾向にある。しかし、正答率を見ると定着へ結び付いていないことが伺える。正答率は国語で一定の成果が見られるものの、3教科ともに「知識・技能」で全国との差がある。また、思考を伴う活動に苦手意識がある面も見られ、「思考・判断・表現」でも全国との差がある。学校別に見ると、学校間で正答率に差が見られている。

学校は、「授業について話し合うことが十分に行えていない」「ICT機器の活用サポートが十分に受けられていない」と感じていることに加え、児童生徒がICT機器を十分に使いこなしているとは言えない様子も伺える。

以上を踏まえ、次の3点を重点とし、授業力の向上を図る。

- ①各校の実態を踏まえた指導の工夫、学びのユニバーサルデザイン（UDL）の視点を踏まえた実践…最重点
- ②指導力向上を図る校内での職員の協同を着実に推進
- ③思考力、判断力、表現力等の資質・能力を高める指導の充実

3 基本的な生活習慣の確立

学校は、家庭学習について具体的に指導しているとしているが、家庭での学習習慣が十分に身に付いていないことが伺える。また、児童生徒は、読書習慣や読書への関心も高くない状況にある。

以上を踏まえ、次の2点を重点とし、基本的な生活習慣が確立するよう取り組む。

- ①一人一人の実態に応じた家庭学習支援…最重点
- ②各校の実態に応じた読書機会を創出